



唐島吉三氏と対談

こと、生活に困っていること、良いアイデアなどについて話し合ったりしながら、従業員の気持ちをつかむ努力をしました。そんなことから、総と労働組合との間には一度もいざいざがありませんでした。

総は、「『経営者（会社を持っている人）は、喜びは従業員と共にし、苦しみは従業員より先にする』ということに心がけ、常に従業員の意見を聞くことが大切です。」と話しています。

昭和四十一年（一九六六年）八月一日のある新聞に、労働組合から感謝状を受けた内田総のことが報じられていました。

名古屋工場に労働組合ができて五周年記念の時、多くの人々の前で、総に感謝状が贈られました。労働組合の代表者の話によると、「とにかく、社長に感謝の気持ちを表わしたかった。」そうです。

感謝状には、「私たちが自信と希望を持って